令和7年5月2日

南の風 For Junior 187

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

リクリエイトの「とりあえずのプレー」を「意図あるプレー」に変える、の続きです。

▶相手の意図の裏を積極的にねらうリクリエイト

ボールプッシュのミッドコートエリアでのドラッグスクリーン（ボールプッシュする味方の選手にフロントコートに走り込みながらオンボールスクリーンをかける）を例に考えて見ます。ドラッグスクリーンでペイントまでアタックできたとしても、ディフェンスに対応される場合が多く、ドラッグスクリーンをリジェクト（スクリーンをかけたとき、ユーザーのディフェンスがスクリーンに反応したとき、反対側をドリブルで攻める）してペイントアタックしても、攻め切れないこともあります。ですから、その先のことを考えておくと慌てることもなくなります。

例を挙げます。図解して進めてもらえるとありがたいです。アライメントは、攻めるリングに向かってフロントコートの3Pラインの上辺りでボールプッシュするガードを①とします。左サイドレーンを走りコーナーまでいくランナーを③、そしてボールプッシュのガードの右からドラッグスクリーンに行くスクリーナーを⑤とします。

①が⑤のドラッグスクリーンを利用して攻め、エルボー付近で止められたとします。①はスクリーナーの⑤にボールをキックバックし、サイドレーンを走る③にダウンスクリンをかけます。⑤は③とドリブルハンドオフして攻めます。これをズームアクションと呼びます。このように1回目のクリエイトが上手くいかなかったときに、停滞することなく予めリクリエイトのストーリーを描いておくと、積極的に次のプレーをねらいにいける安心感を確保できます。チーム全体が心理的に安定した攻めを継続することができるのです。

お尋ねのクリエイト局面の解説は以上ですが、せっかくの機会なのでクリエイトの段階でできたチャンスを生かす段階、『チャンス局面』の理論的な部分についても触れておきます

チャンスとは、主にクリエイトの段階でできたチャンスを生かす段階です。クリエイトで崩れたディフェンスのどこにチャンスが見出せるのかに重きを置きます。機会損失をしないことが重要です。

U15の皆さんに特に伝えたいことは、チャンスをいかにつくるかよりも、できたチャンス（有利）を見逃さずに攻めることに注力するということです。U15やU12ではトランジション（キャスティング）のときに、相手ディフェンスの遅れやミスで、チャンス（有利な場面）が自然にできている場合が多くあります。そのチャンスにつけ込んでフィニッシュ（シュート）に持ち込むことが大事なのです。U15やU12の大会や試合を観ているとそのチャンスを見逃していることが多々あります。

具体的には、カウンター1対1、トランジション1対1、あるいは穴があるのにそこへカットしない、などです。

大切なことは「チャンスとは何か」を知ることです。

次号にします